

西条市まちづくり市民会議における評価・意見及び回答

②第1期西条市まち・ひと・しごと創生総合戦略

No	まちづくり市民会議委員から提出された評価・意見等				評価・意見等に対する回答
	政策分野（基本目標）	施策	項目（指標）	評価・意見等の内容	
1	基本目標1 産業振興による活力あるまちづくり		全体	産業振興では、人材育成、企業誘致、ものづくり支援など企業の活性化など、企業の活性化が図られていると思う。これらの支援を最後まで続けていくようお願いしたい。	本市の優れた立地環境を活かした企業の成長が描ける地域社会、企業が積極的に設備投資を行い、生産活動が活性化する地域社会、ものづくり中小企業が新たな事業にチャレンジしやすい社会の実現に向け、後期基本計画においても引き続き取り組みを推進してまいります。
2	基本目標1 産業振興による活力あるまちづくり	基本目標	市内で新たに就職、就業した者の数	基本目標の「市内で新たに就職、就業した者の数（累計）」に転勤による転入者は含まれていないのか。定着しない可能性のある移住者への支援より、Uターン者への支援に重きを置くべきだと思う。	「市内で新たに就職、就業した者の数」は、市内企業に新たに雇用された方や新規就農者等をカウントしています。この人数の中には、本市在住者に加え、市外からの就職・就業及び転勤による転入者が含まれています。移住施策については、Uターンのみならず、移住検討者向けの支援として事業に取り組んでいるところです。これまで販路拡大に重きを置いていた大阪事務所について、今後は、関西圏における若者向け西条市コミュニティを作る拠点として、潜在的なUターン希望者の発掘を目指すこととしています。
3	基本目標1 産業振興による活力あるまちづくり	⑥農林水産業の振興 (7)水産業経営の安定化	一経営体当たりの漁獲高	KPI（一経営体当たりの漁獲高）は達成できているが、近年漁獲高が減っていて漁業（漁師）をやめる人が多くなった話をよく耳にする。そのあたりの実態はどうなっているのか。また、地域によってその実態や状況は異なるのか。	一経営体当たりの漁獲高は、漁業（漁師）と海面養殖業の漁獲高を、水産業を主とする経営体数で割った数字になります。ご指摘のように、ここ数年で約30経営体が廃業しているのが現状です。地域別でみると、西条地区は海面養殖業の漁獲高が高く、東予地区は漁業の方が若干高い傾向にあります。漁獲高及び経営体数を維持するためにも、各魚種の種苗放流や新規漁業者に対する支援等、水産業の各種施策を引き続き推進してまいります。
4	基本目標2 西条ブランドを活用した魅力あるまちづくり		全体	①～④の目標達成状況が概ね良好であるにも関わらず、基本目標が達成されないところに、この政策分野の難しさが感じられる。更なる工夫を期待したい。	「地域ブランド調査におけるランキング」では、魅力度、認知度ともに目標は達成できませんでしたが、認知度は少しずつ上昇しています。また、2019年調査時にホームページやSNSの情報接触経路が県内2位、首長の認知度が県内1位となったことから、情報発信に関するこれまでの取り組みに一定の成果は見られると認識しています。上位目標と下位目標との連動については、前期基本計画では、基本目標と成果指標との連動がうまく図れていなかった反省点も踏まえ、総合計画審議会でも議論をいただくなど、抜本的に指標体系の見直しを行っています。
5	基本目標2 西条ブランドを活用した魅力あるまちづくり	基本目標	地域ブランド調査におけるランキング	基本目標2の「地域ブランド調査におけるランキング」の目標値は、人々の主観に左右されそうなことから、取り組みが結果につながりにくいように思った。	「地域ブランド調査におけるランキング」では、魅力度、認知度ともに目標は達成できませんでしたが、認知度は少しずつ上昇しています。また、2019年調査時にホームページやSNSの情報接触経路が県内2位、首長の認知度が県内1位となったことから、情報発信に関するこれまでの取り組みに一定の成果は見られると認識しています。
6	基本目標2 西条ブランドを活用した魅力あるまちづくり	基本目標	地域ブランド調査におけるランキング	地域ブランドのランキングに一喜一憂したり、高額な予算を措置する必要はないと思う。人口減少と税収の減少は大都市以外避けられないと捉え、今のうちに過去から積み残している課題を解消し、低成長でも安定した生活が可能な地域とすることが必要だと思う。	地域ブランドのランキングに一喜一憂するものではありませんが、移住・定住の促進、関係人口の拡大に資する施策は、自治体間競争がより一層激しさを増す中、本市が勝ち残るまちを目指していくためには必要な施策であり、費用対効果も踏まえながら、戦略的なシティプロモーションの推進により、本市の価値や魅力の向上に努めているところです。過去から積み残している課題の解消としては、人口減少・少子高齢化が急激に進展している中で、次世代に過度な負担を残すことのないよう、各種事業や使用料の見直しを行うとともに、公共施設マネジメントを推進しているところです。また、少子高齢化が深刻化し、人口が減少するという厳しい状況の中でも持続可能な暮らしを実現するため、地域自治組織の設立等を通じて、これからの時代に即した地域コミュニティの構築にも努めているところです。

No	まちづくり市民会議委員から提出された評価・意見等				評価・意見等に対する回答
	政策分野（基本目標）	施策	項目（指標）	評価・意見等の内容	
7	基本目標2 西条ブランドを活用した魅力あるまちづくり	②西条の価値や魅力の向上・発信		西条市の魅力を発信しているのはいいことだと思う。	子どもたちが「ずっと住みたい」と思える魅力ある地域社会、市外・県外に住む人が「行ってみたい、住んでみたい」と思える地域社会、住む人が「住んでよかった」と実感することができる地域社会の実現に向けて、各種施策を推進してまいります。
8	基本目標2 西条ブランドを活用した魅力あるまちづくり	②西条の価値や魅力の向上・発信		誰もが名前を聞いて西条とわかるようなブランドづくりをしてほしい。	株式会社宝島社から公表されました「2020年版 住みたい田舎ベストランキング」において、本市が「若者世代が住みたい田舎部門」で全国1位を獲得するなど、目覚ましい成果が表れてきていることから、移住ブランドを本市の強みとして更なる強化を図ってまいります。
9	基本目標2 西条ブランドを活用した魅力あるまちづくり	④移住・定住施策の推進	空き家バンクを通じた移住件数（累計）	空き家バンクを通じた移住には成功だと思いが、売れないどうしようもない空き家を抱えている持ち主のない家が軒並みに増えている。手放したいのにどうにもならない空き家に救いの手立てはないのだろうか。ゴーストタウン化している現状である。	移住・定住の促進に向けた空き家の有効活用策として、今後も空き家バンク制度の更なる充実と活用を図っていきます。ゴーストタウン化が進行しないよう倒壊等の危険がある老朽危険空き家に対しては、所有者等へ西条市老朽危険空き家除却事業補助金の交付等により除却を進めていきます。また、衛生面、景観面、防犯面等において適切な管理がなされていない空き家については、本市が空き家等の適正な管理の促進に関する協定を結び、空き家等管理代行サービスを提供しているシルバー人材センターを所有者等に紹介すること等により、管理の適正化を推進してまいります。
10	基本目標2 西条ブランドを活用した魅力あるまちづくり	④移住・定住施策の推進	空き家バンクを通じた移住件数（累計）	移住してみたい都市1位になったとはいえ、移住件数が少なすぎると思う。移住者にとって住むところがネックだと思う。もっと空き家バンクを活用してほしい。	後期基本計画では、市外からの移住者の更なる増加に向けて、効果的なプロモーションの展開を通じて認知度向上や移住相談会の集客増に努めるとともに、移住体験ツアーやアテンドサービスを積極的に展開していくこととしております。また、並行して市外からの移住者の受け皿づくりに取り組むことも非常に重要であり、こうした中で、空き家バンクの更なる充実と活用を図ってまいります。
11	基本目標3 子育て世代に選ばれるまちづくり	①子どもを産み育てる環境の充実		いしづちの生態や環境を街の中に実現し、子ども達が見ていしづちに行きたいと思うようにするなどして子どもが外で遊ぶまちづくりをしてほしい。	石鎚山系には、変化に富んだ地形と地質、渓谷美、さらに石鎚特有の高山植物など特徴的な自然が広がる多面性に富んでおり、街中の公園などで再現することは困難ですが、小松中央公園内のハイウェイオアシスの子ども広場では、石鎚登山道と同様の鎖を設置するなど、子ども達に石鎚登山を身近に感じ、地域の自然に対して興味や関心を持っていただく工夫をしています。また、現在、再整備を進めている丹原中央公園と東部公園では、「四季を五感で感じる憩いの空間」（丹原中央公園）、「豊かな自然とふれあう緑の丘」（東部公園）というコンセプトづくりから、ワークショップ等による市民参加のもと進めてきており、地域で愛される公園づくりに努めています。
12	基本目標3 子育て世代に選ばれるまちづくり	①子どもを産み育てる環境の充実 (3) 母子健康の充実		子どもを安心して産める場所、病院を増やしてほしい。	ご指摘のとおり、本市の医療体制については、産婦人科に限らず全診療科目において非常に厳しい状況に直面しています。特に市民生活に直結している内科、外科の医師不足が深刻化しており、現時点では、市全体の医師数の増加を図りつつ、優先度を踏まえて対応していかねばならないと考えています。今後とも医療体制の充実に向けた取組を積極的に取り組んでいきたいと考えています。
13	基本目標3 子育て世代に選ばれるまちづくり	②学校教育の充実 (1) 「ともにづくり、みんなが育つ学校」の創造	小・中学校のホームページの年間平均閲覧数	小中学校のホームページ閲覧数の増加は、成果の表れであると思う。	地域住民や保護者が学校運営に参加できるよう「コミュニティスクール」を推進するなど、「ともにづくり、みんなが育つ学校」の創造に向けた取組を更に進めてまいります。

No	まちづくり市民会議委員から提出された評価・意見等				評価・意見等に対する回答
	政策分野（基本目標）	施策	項目（指標）	評価・意見等の内容	
14	基本目標3 子育て世代に選ばれるまちづくり	②学校教育の充実 (2) 知・徳・体のバランスの取れた子どもの育成	・全国学力・学習状況調査平均回答率（総合） ・体力テスト結果（総合判定）	③学校教育の充実（2）知・徳・体のバランスの取れた子どもの教育分野の目標値の達成状況は、非常に残念である。教育現場の生の声を反映した早急な対応が望まれる。	「全国学力・学習状況調査平均回答率（総合）」については、伸びた教科もありますが、特に中学校の特定教科について伸び悩んだことから、総合評価としては達成できませんでした。また、「体力テスト結果（総合判定）」については、各学校で新体力検査を実施し、課題をとらえて各校で体力アップ推進計画を策定し実践しましたが、目標値までには至りませんでした。後期基本計画では、引き続き、知・徳・体のバランスの取れた子ども育成に向けて、教育現場の声を反映させながら取り組みを推進してまいります。
15	基本目標4 安全・安心で暮らしやすいまちづくり	基本目標	・「西条市が住みやすいと感じる市民の割合」 ・「西条市に住み続けたいと感じる市民の割合」	基本目標に「西条市が住みやすいと感じる市民の割合」「西条市に住み続けたいと感じる市民の割合」があるが、どのような要因が「住みやすい」「住み続けたい」と感じているのか。	本指標は、市民向けのアンケート調査から得られた結果であり、「住みやすい」「住み続けたい」と感じる要因は、安心度、利便性、快適性、富裕度といった複合的要因に基づく主観的な判断になります。
16	基本目標4 安全・安心で暮らしやすいまちづくり	基本目標	・「西条市が住みやすいと感じる市民の割合」 ・「西条市に住み続けたいと感じる市民の割合」	「住みやすいと感じる市民の割合」「住み続けたいと感じる市民の割合」の目標値は、人々の主観に左右されそうなことから、取り組みが結果につながりにくいように思った。	「住みやすい」「住み続けたい」と感じる要因は安心度、利便性、快適性、富裕度といった複合的要因に基づく主観的な判断になります。そのため、ご指摘のとおり、取り組みと結果が繋がりにくい曖昧な指標であることから、後期基本計画では、KGI（最重要課題対応指標）として「住みやすいと回答する市民の割合を向上します」を設定しました。
17	基本目標4 安全・安心で暮らしやすいまちづくり	④防災・減災対策の強化 (1) 防災体制の充実 (2) 地域防災力の強化	・総合防災訓練実施回数（累計） ・市が養成した防災士の人数（累計）	今、大災害がすぐにも発生しそうな時期で防災体制の充実は大切である。防災訓練の回数や防災士の人数が多いのは良いことである。	地域防災力の強化に向けては、引き続き防災士や自主防災組織と連携し、市民の防災に関する知識と意識の啓発、訓練実施に取り組んでまいります。